

9 / 4~12

外国人6人が来町 町民と交流深める

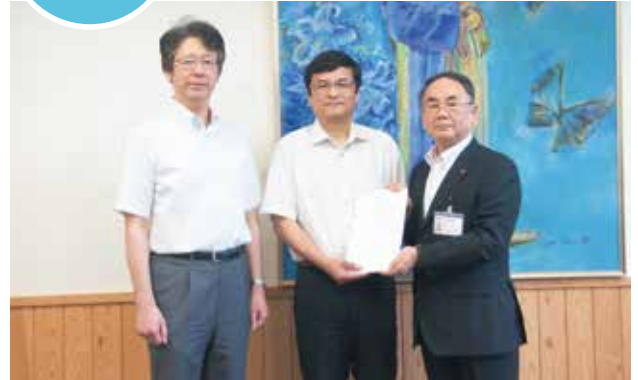


赤石小学校3年生の授業で、書道を体験しました

4カ国6人の外国人と日本人大学生4人を迎え、国際ワークキャンプが行われました。国際ボランティアNGOのNICEと町国際交流協会が実施。9月7日には赤石小学校の児童たちと一緒に書道や体育などの授業を受けた後、それぞれ各国の様子や言葉を紹介しました。この他、期間中には水分農産や(株)アグリ紫波での農作業を行い、夜は空手なども体験。台湾から来町したウ・ユン・シーさんは「田舎の地域でしか学べないことがあると思います、岩手県を希望しました。町の皆さんは親切な人ばかりで楽しく過ごしています」と充実した表情でした。

8 / 31

生きる力を育む教育環境の実現に向けて 町学校教育審議会が提言



(左から)田代高章副会長、塚野弘明会長、侘美教育長

町学校教育審議会(塚野弘明会長)は、第二次答申を侘美教育長に提出し、「多くの他者とともに切磋琢磨できる環境」「他者と自分の考えを練り合わせて自分なりの生き方を見出せる環境」が望ましいと提言しました。

町は、平成27年9月に「少子化の時代における町立学校の教育の在り方」を諮問。同審議会は昨年9月に第一次答申を提出し、今回は「児童生徒に生きる力を育むための教育環境の在り方」についてまとめました。塚野会長は「懇談会などを通じて住民の意見を聞き、今回の答申に至りました。多様な他者と切磋琢磨しながら自分を伸ばしていける環境が望ましいと考えます」と話しました。

9 / 23

ふわふわの秋田犬に にっこり笑顔



秋田犬とのふれあいコーナーには長蛇の列ができていました

オガール東広場で「秋田フェスティバル2017」が開催されました。(一社)秋田県観光連盟が主催し、約3000人が来場。来場者は秋田犬とふれあったり、きりたんぼ鍋などの郷土料理を堪能したりと、秋田県の魅力に触れていました。また、なまはげ太鼓の演奏が午前と午後の2回行われ、なまはげと一緒に写真を撮ったり、手拍子を送りながら演奏を楽しむ来場者の姿が見られました。秋田犬とふれあった古館小学校1年の今野叶想さんは「秋田犬はとてもふわふわしていて、かわいかったです」と笑顔でした。

9 / 10

100歳おめでとう 小田中トメさん(志和)



(左から)長男の妻のヨシエさん、トメさん、熊谷町長、長男の國夫さん

志和地区の施設に入所する小田中トメさんが100歳を迎え、9月11日にお祝い会が開かれました。福島県会津若松市出身で、着物の裁縫や温泉の掃除などの仕事をしていた小田中さん。よく食べてよく寝ることが長寿の秘訣で、お団子やプリンなど甘いものが好きとのこと。長男の國夫さんと妻のヨシエさんは「皆さんにお世話になって100歳を迎えることができました。これからも病気をせずに長生きしてほしいです」と感謝の気持ちを伝えました。

町内の100歳以上のご長寿は小田中さんを含めて21人で、男性1人、女性20人です。(9月30日現在)

9/24

日詰商店街を駆け抜けた町ロードレース大会



仲良く手をつないでゴール!

秋晴れの空の下、第37回紫波町ロードレース大会が開かれました。小学生から一般まで165人が参加。個人の部、継走の部、ファミリーの部に分けられ、楽しく汗を流しながら日詰商店街の特設コースを駆け抜けました。お父さんと一緒にファミリーの部に参加した古館小学校4年の遠藤妃莉さんは「走るのは楽しくて、1.5kmはあっという間に感じました。来年は個人の部に参加して、自己ベストを出したいです」と高みを目指していました。

9/23

町内10の産直で『フルーツの里』を満喫



全会場一斉に行われた餅まき

町内にある10カ所の産直で第19回フルーツの里まつりが開かれました。各会場では抽選会やバンドの演奏、餅つき大会など趣向を凝らしたイベントを開催。訪れた大勢の客は、イベントに参加したり、新鮮なブドウやリンゴ、農産物を買って求めたりして楽しんでいました。午後2時からは全会場一斉に餅まきが行われ、合わせて約3万3400個の餅が振る舞われました。産直センターあかさわでブドウを買って求めた盛岡市の佐藤百合子さんは「紫波町の果物は新鮮で安く、種類も豊富なので、買い物も楽しみです」と満喫している様子でした。

9/27

犬淵工業団地へ新たな企業を誘致



「人口減少が進む中、魅力的な雇用の場をつくっていただき感謝します」と話した熊谷町長(右)と白井代表取締役社長(左)

産業・医療用ガスの製造・供給を行うエア・ウォーター(株)(白井清司代表取締役社長、本社:大阪府)と町は企業立地協定を締結しました。同社は犬淵工業団地内の約1万5000㎡の敷地にVSU(高効率小型液化酸素窒素製造装置)の建設および東北エア・ウォーター(株)の営業所設置を計画。10月に着工し、平成30年10月の開業を予定しています。白井社長は「紫波町は南北を結ぶインフラが整っています。これを契機に、東北に強固な供給ネットワークを築いていきたいです」と展望を語りました。

9/24

あづまねエリアの魅力を堪能



楽しみながら餅をつく子どもたち

全12団体で構成されるあづまねエリア交流連絡協議会は、ラ・フランス温泉館で第9回あづまねまつりを開催しました。宮手鹿踊りの披露や、マツタケや特産品などが当たるスタンプラリー抽選会、つけ麺早食い競争、パトカーや白バイ、消防車の展示など盛りだくさんの内容に、大人も子どもも大満足の様子。恒例の全10基の臼で一斉に行う大餅つき大会も行われ、家族で参加した水分小学校4年の佐々木美織さんは「きねは重くてタイミングを合わせるのが難しかったけど、きれいにつけたと思います」と笑顔でした。